

学校名	島根県 益田市立真砂中学校
-----	---------------

活動のテーマ	守ろう命「自助:自分の命は自分で守る」・支え合おう命「共助:地域貢献～何ができる？」
主な教科領域等	教科領域（学活、総合的な学習の時間、PTA 活動）
活動に参加した児童生徒数	（全学年〔2・3年のみ〕 全校生徒5人）（複数可）
活動に携わった教員数	11人
活動に参加した地域住民・保護者等の人数	8人（保護者・地域住民・その他（ ）） ※児童生徒・教員以外で活動に参加する人の区分に丸をつけ、人数をお書きください。（複数可）
実践期間	平成29年 4月10日 ～ 平成30年 3月31日
想定した災害	※該当するものに丸をつけてください。複数可。 地震・津波・台風・洪水・河川氾濫・土砂・その他（火災、Jアラート）

### 1) 活動の目的・ねらい

- ・「かけがえのない命を大切に」「自他の人権を尊重する」教育の推進の柱の一つとして、自立・共生・貢献する生徒の育成をめざした、自助・共助・公助について学び合う減災・防災教育を行う。（危機管理意識と能力を高める）
- ・PTA活動や地域の自主防災組織と連携した減災・防災教育の視点を新たに加える。（ふるさと教育、地域貢献）

### 2) 実践内容・実践の流れ・スケジュール（※図表等を使用して分かりやすく記述してもよい）

#### 1学期 地震防災学習&避難訓練 平成29年6月26日（月）13:25～14:15（参加者19人）

- (1)地震防災学習（40分）→(2)避難訓練（10分）\*緊急地震速報を使用して、地震訓練を参加者全員で行う。  
①パワポ→NHK Eテレ「学ぼう BOSAI 地球の声を聞こう～地震波が教えてくれること」②「対策が不十分な部屋」の絵を見てどこが不十分か発表する。③NHK Eテレ「学ぼう BOSAI 地球の声を聞こう～地震はなぜ起こるの？」  
④震度について&緊急地震速報が届いたら、どう行動する？安全な場所とは？「命を守る3つのない」

#### 2学期 火災避難訓練&防災学習 平成29年11月24日（金）14:25～15:30（参加者23人）+Jアラート避難訓練9/7

- (1)火災から命を守る防災学習（35分）～パワポを見ながら、火災からの避難の留意点を学習する。+災害救護活動1/22  
(2) AEDの必要性について学ぶ。\*命の記録MOVIE～ASUKAモデル～AED減らせ突然死プロジェクト視聴 ↓  
(3) パワポを見ながら、復習と応用学習（4）火災避難訓練（30分）→消防団長指導&消火器実演練習  
↓

#### 3学期 大震災を忘れない防災学習&保護者引渡訓練&保存食試食 H30年1月30日（火）14:25～15:40（20人参加）

- (1)映像で学ぶ「東日本大震災」①直後のニュース映像+津波映像②いつか来る日のために「証言記録スペシャル 命を守る避難とは」③NHK「あの日わたしは」2本④「気仙沼市立階上中学校卒業式答辞」⑤「あすという日が」視聴  
(2)保存食お湯注入⇒紙食器作り⇒保護者引渡訓練⇒保存食試食⇒減災教育助成金で購入した保存食等&保管庫紹介

### 3) 9月研修会の学びの中から自校の実践に活かしたこと。研修会を受けての自校の活動の変更・改善点。

昨年度まで（助成金を受ける前）の実践と今年度の実践で変わった点。助成金の活用で可能になったこと。

#### 9月研修会から自校の実践に活かしたこと。【\*減災教育は、「命の教育」であり、「子供たちの未来への投資」である。

- \*震災から11日後、避難所となっていた体育館で2,000人位いる被災者と一緒に行われた気仙沼市立階上中学校卒業式の胸に迫る答辞が、いかに被災者を勇気づけたことか。あの時の中学生の胸の内。それでも前向きに生きる力。
- \*生き残った観測計データの津波最大高さは9.1mでも、事実は違う。遡上津波の最大は40.9m。
- \*東日本大震災の行方不明者は今でも2,500人以上で、阪神・淡路大震災との大きな違い。それが津波被害の残酷さ。
- \*判断一つで子どもの命の明暗が決まる。判断が遅れたり、間違うと、災害に巻き込まれる可能性を肝に銘じる。

\* 6年経っても避難所や仮設住宅と学校を結ぶ巡回スクールバスが走っている＝未だに日常が戻っていない現実がある。  
\* 減災教育で求めるもの(育成する力)～①災害に対する知識・理解。②災害と自分との関係性の認識。③災害に備える力。④災害時の判断力・対応力。⑤復旧・復興への参画・貢献→災害に対応し乗り越えるしなやかな力(レジリエンス)の育成。  
\* 防災・減災教育を通して、様々な能力・態度を育てる。→人間教育となっている。やれるところから一步一步！育った子どもが社会を変える。→教員が変わると、子どもが変わる。教員が学校を変え、地域を変える。】等の考え方。

**助成金の活用で可能になったこと。**【ほとんど備蓄できていなかったため、この助成金を利用して、生徒・教職員・保護者・地域の方々のための万が一に耐えうる保存食や防災用品を購入できたこと&3学期防災学習での保存食試食。】

#### 4) 実践の成果

##### ①減災(防災)教育活動・プログラムの改善の視点から

\* 助成金が一括で口座に振り込まれるので大変使いやすしいし、趣旨に合っていれば何を購入しても良い点も有難い。  
\* 9月研修会はハートスジュールだったが及川先生の減災教育に対するぶれない理念が貫かれ叩き込まれるので大変良い。

##### ②児童生徒にとって具体的にどのような学び(変容)があり、どのような力(資質・能力・態度)を身につけたか。

\* 指導者である教員の意識が一層真剣になり、より良い防災教育をめざして教材研究に更に力が入ることにより、生徒にとって質の高い防災学習ができた。「何かあった時には人と人とが協力することの大切さ」を実感していた。  
\* 地域の自主防災関係者や保護者と一緒に学ぶことにより、生徒と共に家庭や地域を巻き込んだ防災学習となった。  
\* 新たに立ち上げた親子PTA活動(ニコニコ高齢者訪問)を通して、中学生でも地域に貢献できることを実感できた。

##### ③教師や保護者、地域、関係機関等(児童生徒以外)の視点から

\* 避難所となる可能性が高い学校の教職員としての自覚や在り方について考えることができた。  
\* 保護者引渡カードの作成や引渡訓練を通して、保護者の災害時に対する意識も高まった。  
\* 今年度より保護者や地域自主防災関係者に防災学習&避難訓練を公開することにより地域貢献や連携が前進した。

#### 5) 自校の実践で工夫した点、特筆すべき点

\* 今年度当初、地域の自主防災団体が設立された機会を捉え、今まで「自助」として行っていた学期に1回の「減災・防災教育及び避難訓練」を、今年度より保護者と地域自主防災関係者に公開した点。  
\* H29.4.18に地域の「自主防災団体」が設立され、災害発生時に高齢や障がいなどによって一人で避難することが難しい人への支援体制を検討している中で、「中学生にも地域貢献として何かできることはないか？」を検討した結果、今年度、長期休業中の親子の宿題として、親子で自分の家の周りの(独居)高齢者宅を訪問し、顔見知りになって一緒に写真を撮り、今まであまりよく知らなかった(独居)高齢者等宅の場所と顔を知ることで、災害時に共助できる生徒の育成を目指し新たなPTA活動を立ち上げた。「待ってたよ」と歓迎され双方にとって心の癒しを味わえた。

#### 6) 実践から得られた教訓や課題と今後の改善に向けた方策や展望

\* 保護者や地域関係者に毎学期案内を出したが、平日のため参加率が低い点と参加者が毎回ほぼ同じ方であった点。  
\* 極小規模校の本校が備蓄できる防災用品には限りがあり、今年度のみ助成金なのだが、地域がそれで安心と思われてはいけない。日頃からの各家庭での備えと共に、行政や地域自主防災団体での計画的備えの必要性も感じた。

#### 7) その他(※特にあれば記述)

※生徒、保護者、教職員、学校評議員、地域関係者等、防災学習参加者の感想及び振り返りを別紙で添付いたします。  
※写真と補足資料も添付いたします。

1. 日時 平成29年6月26日(月) 13:25~14:15 (5校時 3教にて実施)
2. 目的
  - ・2011(H23)3.11の東日本大震災、1995(H7)1.17の阪神淡路大震災、H28.4.14&4.16の熊本地震を忘れず、地震や津波など、いつ発生するか分からない自然災害に対処する心構えを日頃から培う。
  - ・自分の命を守るのに主体的な生徒を育む。
3. 流れ (①地震防災学習40分+②地震避難訓練10分)
  - ① 地震防災学習(40~35分)
    - (1) パワポ→NHK Eテレ「学ぼう BOSAI 地球の声を聞こう~地震波が教えてくれること」(8分)
    - (2) 「対策が不十分な部屋」の絵を見て、どこが不十分か発表する。(昨年度の復習)
    - (3) NHK Eテレ「学ぼう BOSAI 地球の声を聞こう~地震はなぜ起こるの?」(6分30秒)
    - (4) 震度について&緊急地震速報が届いたら、どう行動する?安全な場所とは?「命を守る3つのない」
      - ① 教室で、地震が発生したらどうする?
      - ② 外で、地震が発生したらどうする?
  - ② 避難訓練(10~15分)
    - (1) \*DVD「津波に備える」資料編中の**緊急地震速報を使用**して、地震訓練を行う。
    - (2) 3教に全員いる場合の地震避難訓練開始(緊急地震速報:IT担当→計時&観察:校長) \*上履きのまま  
①中庭へ(屋根や校舎の倒壊に注意:頭を守る)→②校庭真中へ(時計のある渡廊下倒壊注意:頭を守る)  
**\*正しい避難経路は?**
    - (3) 校長先生のお話
    - (4) 消防団分団長さんのお話
    - (5) 振り返りシート記入(A5用紙)・・・学級終礼で
4. 参加者(5人)連合自治会長、公民館長、消防団分団長、自主防災組織Ⅱ班班長、2年男子母(5+9+5=19人)~**人数分丸椅子等準備**
5. 職員役割分担~**4校時(会場準備)+給食(調理室にて)**
  - ・校長(全体観察、講評) ・教頭(全体観察、緊急地震速報&地震音、防災学習準備、振り返りシート準備)
  - ・DVD等設置&操作&写真係 ・**緊急地震速報&地震音流す係**
  - ・担任&副担任+生徒+一部地域&保護者 共に避難 ・(接待係)~職員室で避難訓練から参加
6. 危機対応の心得(地震):事前学級指導内容

- ① 日本には、大きな揺れが来る前に知らせてくれるシステム「緊急地震速報」がある。
  - ② これは、いち早く地震の発生を伝え、強い揺れに警戒するよう呼びかける仕組み。
  - ③ 緊急地震速報の時も、すぐに机の下へ!
  - ④ 以前は地震の時はまず火を消せと言われていたが、現在はガス(マイコンメーター付なら)やストーブなどは震度5程度の揺れで止まるよう設計されている。
  - ⑤ 近づいて火傷をする危険もあるので、地震の時はまず身を守るのを第一に、すぐに丈夫な机の下に入って、机の脚を持つ。たとえ家が崩れても、机の下に空間ができるから生きのびて助けを待てる。
  - ⑥ すぐにとっても、そばにある携帯電話を素早く取って机の下に避難するぐらいの時間は、かまわない。生き埋めになった時、携帯電話があると助けを呼べるから。
  - ⑦ 震源地がごく近い時や、震源が真下にある直下型地震では、地震発生直後に大きな揺れが来るので、緊急地震速報は間に合わない。無くても揺れを感じたら素早く避難行動を!
  - ⑧ 安全な場所とは?物が「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所。
  - ⑧ 家の中で、落ちてきたり、倒れてきたり、移動してきそうな物は?
    - ~電気、エアコン、テレビ、タンス、食器、本棚、窓ガラス…
  - ⑨ 外で地震がきたら、建物から離れよう!なぜ? ~瓦、窓ガラス、ブロック塀、壁、植木鉢、電柱、看板…
  - ⑩ 身を隠す物が無い時は、両手で頭を守り、だんご虫の様に体を小さく丸める。~座布団・クッションや本等身近にある物で**頭を守る**ようにしゃがむ。何もない時は、両腕で抱えるようにして頭を守る。**(頭部が最も大切)**
  - ⑪ 山に居た時は、木が倒れたり、土砂崩れが…なるべく開けた場所へ逃げる。
  - ⑫ 危険がないように、日頃から身の回りを整理整頓しておく。
- \* 避難・集合場所に着いたら、学級委員が点呼をし、担任に報告する。 ・健康観察:養護教諭→教頭→校長

1. 日時 平成29年11月24日(金) 14:25~15:15 (6校時 3教にて実施)
2. 目的
  - ・ストーブを使用する季節でもあり、火災が発生しやすい気候となる時季を迎えるにあたり、火災予防の意識の醸成を図る。
  - ・命を守るのに主体的な生徒を育む。
  - ・保護者や地域関係者も招いて、地域と連携した防災学習や避難訓練を行う。

◇火災避難訓練内容

- (1) 授業中における火災に際し、敏速で安全に避難ができる態度を養う。
- (2) 大声による「火災の発生場所」を正確に聞き取る。
- (3) 適切な避難指示を教員が出す。(避難場所、経路を確認し、速く安全に避難させる&通報指示)
- (4) 避難場所での集合、人員掌握、人員報告を確実に身につけさせる。
- (5) 消火器の体験により、消火器の使い方を学ぶ。
- (6) 通報の訓練をする。(小川) ~ **\*15:00頃 119番に「訓練火災です」と必ず最初に言う!**

3. 流れ (①防災学習30分~35分+②火災避難訓練15分)

① 防災学習 (30分~35分)

- (1) パワポを見ながら、火災からの避難の留意点を学習する。
- (2) AEDの必要性について学ぶ。  
\*命の記録MOVIE~ASUKAモデル~AED減らせ突然死プロジェクト(6分1秒)視聴
- (3) パワポを見ながら、復習と応用学習

② 火災避難訓練 (15分)

- (1) 管理棟から(事務職)、火災発生(火元:調理室)を知らせに来る。火災避難訓練を行う。
- (2) 3教に全員いる場合の火災避難訓練開始(避難指示:教頭→計時&観察:校長) \*上履きのまま  
**①下駄箱前へ(\*廊下側出口→廊下→下駄箱前)→②校庭真中へ(雨天:旧体育館)③点呼 ④報告**
- (3) 消火器の使い方説明(消防団長)→消火器実演練習(全生徒) \*消火器6本用意
- (4) 校長先生のお話 **↑ 雨天時:旧体育館入口前通路にて実施**
- (5) 消防団長さんのお話
- (6) 振り返りシート記入(A5用紙)・・・学級終礼で

4. 職員役割分担

- ・校長(計時、全体観察、講評)
- ・教頭(全体指示&避難指示、消火器手配、防災学習教材準備、振り返りシート準備、保護者等へ案内文書作成・配付)  
「自衛消防訓練通知書」予防課 FAX 24-2218 (本当は1週間前までに2部提出)
- ・DVD等設置&操作、写真係
- ・**担任&副担任(生徒や保護者等への避難誘導&生徒と共に避難)**
- ・事務職:3教へ火災発生を知らせに来る(ハンドマイク使用?)&通報訓練 **(5分前に消防署予防課へ電話連絡)**
- ・施設主員:避難者集合場所で報告待つ 救急箱持出 **↑ 予防課 電話 31-0230**
- ・**消防分団長:火元マーク的、消防車**

**\*当日5校時準備:3教セッティング、消火器移動、火元マーク設置(授業のない方々、一緒に準備のご協力を)**

5. 学級での事前指導(別紙)~本日朝礼時に実施

6. 外部参加者~ **(8名)** 消防分団長、連合自治会長、公民館長、真砂小校長  
学校評議員2名、自主防災団体Ⅱ班長、保護者:2年男子母

7. 全参加者数~ **(23名)** =生徒5名+教職員10名+外部参加者8名

\*○、△、×等で評価して下さい。×や△は、内容を簡単に言葉で加えてください。

点検係チェック項目

点検項目	3教	2教
出入口戸閉める		
窓閉める		
ストーブ消火		

避難状況観察係チェック項目

点検項目	3教	2教
真剣に		
押さない		
走らない		
しゃべらない		
避難後すぐ人員確認報告できた		

学年部チェック項目 (担任)

逃遅れ点検箇所	3教	2教
放送の内容をきちんと聞き取る		
静かに指示を聞く		
指示通り行動できた		

<学級事前指導事項>

・緊急放送(告知)が始まったら、すべての行動を止め、静かに告知内容を聞く。

・緊急放送(及び教員)の指示に従って、直ちにストーブを消火し、(近くの窓やドアを閉め)、各自速やかに避難する。

・火元の戸は必ず閉める。階段に近い場所が火元の時は、煙は上には1秒で3メートル上がるので、特に戸を閉めることが肝心。横には大人の早歩き程度の速度だが……。

・一旦避難した後に物を取りに行かない。煙が充満している中に入ると、2呼吸位の煙(=一酸化炭素)を吸い込むだけで、呼吸困難となり、意識がなくなるので、とても危険だから。

・屋外に出るまでは「真剣に」「押さない」「走らない」「しゃべらない」を守って行動する。特に、階段においてはゆっくり慎重に降りること。

・ハンカチやタオルを持っていたら、鼻と口をふさいで出る。

・一般的な避難経路の確認、火元から遠い所へ

・大型施設等で、万一、逃げ遅れて防火扉・防火シャッターが閉まっても、扉やその付近にくぐり抜け戸があることを指導しておく。

・避難後、全校集会の隊形で黙って並ぶ。

・担任は、人数確認&健康観察を行い、校長に報告。

・教務主任は、教職員の人数確認&健康観察を行い、校長に報告。

・教頭または事務は、保護者等外部来校者の人数確認&健康観察を行い、校長に報告。

・訓練だからといって、真剣さがないと、何回やっても意味がないので、真剣に！

生徒避難完了タイム ( 分 秒)

避難開始～報告終了タイム ( 分 秒)

# 「大震災を忘れない」防災学習&保護者引渡し訓練・保存食試食【改訂版】

H30.1.30 職員朝礼資料

1. 日時 平成30年1月30日(火) 14:25～15:40 (6校時+掃除時間 3教にて実施)
2. 目的
  - ・2011(H23).3.11の東日本大震災、1995(H7).1.17の阪神淡路大震災、2016(H28).4.14&4.16の熊本地震などの大震災を忘れず、地震や津波など、いつ発生するか分からない自然災害に対処する心構えを日頃から培う。
  - ・自分の命を守るのに主体的な生徒を育む。
  - ・保護者引渡し訓練を行い、必要な準備やマニュアルを作成する。緊急時における生徒の安全確保と保護者、地域との連携をスムーズに行うための訓練を実施して、より安全で安心できる学校をめざす。
  - ・災害時に地域の重要な防災拠点となる学校の防災力の向上を目指す。
3. 流れ (①大震災を忘れない防災学習50分+②保護者引き渡し訓練&保存食試食25分)
  - ① 「大震災を忘れない」防災学習(50分)
    - (1) 「東日本大震災」についての映像視聴(15分30秒)
      - ・東日本大震災直後のニュース映像(1分)+津波映像(1分)(計2分)
      - ・いつか来る日のために「証言記録スペシャル 命を守る避難とは」(13分30秒)
    - (2) NHK「あの日わたしは」2本(5分×2=10分)視聴
    - (3) 「東日本大震災から11日後～気仙沼市立階上中学校卒業式答辞」視聴(3分) \*後で全文配付
    - (4) 「あすという日が」(12分)
  - ② 保存食準備⇒ゲーム(紙食器作り)⇒保護者引き渡し訓練⇒保存食試食(25分)
    - (1) 保存食にお湯を注ぐ⇒15分後に試食可能
    - (2) 保護者引き渡し訓練～【引渡カード準備】
    - (3) 紙食器作りゲーム～班対抗で、2分で何個作れるか?⇒ビニール袋を被せて非常時の食器体験
    - (4) 保存食試食(白飯、わかめご飯各1)⇒減災教育補助金で購入した保存食等の紹介&保管庫の紹介⇒試食中、歌の映像流す「しあわせ運べるように」(4分)
    - (5) 消防団分団長さんのお話
    - (6) 校長先生のお話
    - (7) 振り返りシート記入(A5用紙)・・・学級終礼で
4. 「緊急時引き渡し・引き取り」訓練について
  - (1) 目的 : ①大きな自然災害や事件、事故が発生した場合、学校は保護者へ生徒を安全に引き渡し、保護者は生徒を学校へ引き取りに行くという状況が考えられる。大地震が発生したことを想定し、生徒の安全な引き渡し、引き取りが行われるよう訓練を実施する。と同時に、必要な事前準備とマニュアルを作成する。  
②緊急時における生徒の安全確保と保護者、地域との連携をスムーズに行うための訓練を実施して、より安全で安心できる学校をめざす。
  - (2) 訓練
    - ①保護者への生徒引渡(2年男子・母・担任)～【引渡カードへ記入】  
ア)保護者:「〇〇を迎えに来ました」⇒担任:「〇〇君、こちらへ。引渡カードへ記入」
    - ②知人の方への生徒引渡(3年男子・副担【祖父役】+担任)～【引渡カードへ記入】  
イ)知人:「〇〇を迎えに来ました」⇒担:「こちらの方は誰?と必ず生徒に確認。知人にもカードで関係確認を」
5. 職員役割分担
  - ・校長(全体観察、講評)
  - ・教頭(授業者、保護者引き渡しカード事前準備、防災学習準備、振り返りシート準備)
  - ・お湯・紙食器用紙・スプーン等保存食試食のための準備・搬入(教頭、施設主員)
  - \*13:10から会場準備(全職員) ・PC&BR等機器設置(情報担当) ・写真係 ・外部対応係
  - \*片づけ指示(教務) \*接待(音楽室:校長・教頭、湯茶:施設主員・養教) \*チャイム切る(教務)
6. 外部参加者～(5名) 消防分団長、連合自治会長、公民館長、真砂小校長  
自主防災団体Ⅱ班長、保護者:2年男子母(遅れる)、学校評議員1名
7. 全参加者数～(20名) =生徒5名+教職員10名+外部参加者5名 \*連絡なしで来校有るかも?椅子若干予備を

## H29年度 「命を守る」防災学習&避難訓練 感想&振り返り

島根県 益田市立真砂中学校

### 1学期 地震防災学習&避難訓練 平成29年6月26日(月)13:25~14:15(参加者19人)

<生徒の感想>

①2年男子E:地震についてとても印象に残ったことは、マグニチュード7と9では、1000倍も違うということを知ってびっくりしました。家では、地震対策はしていなかったの、また話し合いたいと思いました。「益田ではあまり地震が起きることがないから」と言って、いざという時に行動できなければ、この活動の意味がないので地震が起きたらすぐ行動できるようにしていきたいです。

②2年男子I:去年も学んだことなので、久しぶりに見た画像や言葉がありました。今日やった時には覚えていましたが、本当の地震には、覚えているかが心配です。益田市には、大きい地震はありませんが、遠くの場所に住んだり、旅行に行った時に備えて、今日学んだことを生かしたいです。そして、今よりももっと地震対策を強くしてほしいです。

③2年男子S:ここは山奥だから津波は来ないと思っていました。でも、津波は来なくても、地震や土砂災害があるので注意しないとイケないと思いました。僕の部屋は、漫画が多くて、本棚がいっぱいあるけど、止めていないので止めておきたいです。

④3年男子T:家では、物を倒さないための工夫を全くしていないなと思いました。地震があっても慌てずに、自分の命を守っていききたいなと思いました。

⑤3年女子R:私は、この学習をして、マグニチュードが1変わると、36倍になることを初めて聞きました。去年の地震防災学習や理科の時間で知っていることもありましたが、新たに知ることができました。私の家は、地震に対しての対策をしていないので、危ない状態なのだと気づきました。地震が起こってからでは遅いので、帰って家の人と点検をしたいです。

<地域参加者・保護者・教職員>

\*大変良い勉強になりました。4月に「ときめきの里真砂」自主防災団体を設立しましたが、今後の活動に今日の体験を生かし、地域を挙げて取り組み体制が出来ればと思っています。(連合自治会長)

\*日常生活で、この防災学習を生かしてください。(消防団分団長)

\*高齢者の方などは、机の下に入るといふ行動は、なかなかむずかしい。防災ずきん等、各家庭での準備の促し、避難経路の確かな確保を確立していかないとイケないと改めて考えさせられました。独居の方の安全確保が課題ですね。(自主防災団体2班班長)

\*日頃からの備えが、とても大切だと感じました。知らない事がたくさんあり、とても勉強になりました。防災学習が定期的にあると、子供達の意識も高まるので、これからも繰り返し行ってほしいです。(保護者)

\*アラームが鳴ってすぐに生徒は机の下にもぐった。実際にはきっと、大人の方が「何かあった〜?」とか言いながら避難しないので(鳥取地震の経験より)、中学生が大人をリードしてくれるのではないかと期待が持てました。(教員)

\*今回は、教員がいない時に、突然訓練をするのはどうでしょう(昼休み、朝読書で図書室にいる時など)。とても濃い内容をありがとうございました。(教員)

## 2学期 火災避難訓練&防災学習 平成29年11月24日(金) 14:25~15:30 (参加者23人)

①僕は、火災にすぐそばでは出会ったことがないので、できるか心配だったけれど、しっかりとやっていきたいです。消火器を使って、自分は確かに1個あったらいいかもだけど、ちょっと粉などで大変と思いました。消火方法はたくさんあると思うので、もっと自分が良いと思うものを頭に入れておきたいです。

②明日香さんや野球部のマネージャーのように、「息をしている」と思って救急車を待つのは、いけないなと思いました。意識がなかったら、AEDや心肺蘇生をしたいと思います。そして、消火器も2年ぶりぐらいに使ったけど、やり易かったです。いざとなった時、今日の学習が活かせるようにしたいです。

③AEDは、ピンチと思ったら使うように使用と思いました。少しの選択ミスで、一人の命が亡くなるので、少しもミスできないと思いました。火災の訓練では、消火器の使い方を再確認できたので良かったです。窓を閉める、電源を切るなどの焼け広がるのを防ぐためのことが多くて大変でした。

④今回の学習で、人が倒れた時や、火災がおきた時の対処が分かりました。もしも、自分の周りで起きてしまった時は、最善のことをしたいと思います。

⑤今日、防災学習をして、火や煙はとても危険なものだと感じました。もしも、火災が起こった時、どうすれば良いか、どうすれば自分の身を守れるか、深く考えることができました。心肺停止の時、焦らずに、息をしているか、どうすれば良いのか考えなければいけないのだと分かりました。「目の前の命を助けられるのは、自分」、それを心に留めて、これからの生活を過ごしていきたいです。  
\*大変良い勉強をさせていただきました。こうした日頃の体験が、いざ火災の時に役立つと考えています。自主防災団体も、今日の事をヒントに取り組んでいきたいです。次回もぜひ声をかけてください。

\*良い企画なので、もう少し地域の方の出席があれば…。消火体験、火を燃やすなどもう少し実際に近い対応なら…。

\*本当に訓練はいつも大切だと思いました。実際に火が出ると怖いものです。実際に火があったら良いと思いました。

\*火災の初期消火等、大変有意義な学習でした。

\*救急法は、忘れがちであるので、定期的に行うことが必要であると感じた。避難訓練は、煙を出すなどリアリティーを出すことも考えたい。ビデオやクイズが効果的であった。

\*火災が起きた時の対処方法が分かり、良かったです。クイズをしてみて、素早く考え、正しく行動すれば、命が助かるのだと思いました。子供達も実際に消火器を使うことが出来、いい体験が出来たと思います。今年は、近所で火災があり、火災の怖さを子供も私も見ています。冷静に判断するのは、とても難しいと思いますが、知識を持つことで、正しい判断をする事が出来ると思います。地区の方や消防団の方にも協力していただいているので、子供達には、この学習をしっかりと生かしてほしいです。

\*この話を聞く前だったら、監督と同じ様に、呼吸をしていると判断し、救急車を待ったと思います。知らないという事は、とても怖い事だと思いました。今は迷わず、AEDを使います。

\*通報(119)について~聞かれることは、住所、出火場所、出火の程度、避難の状況(どこへ、全員避難しているのか?)、ケガ人はいないか、出火場所への経路、誘導について、等が聞かれます。通報する人は、出火場所の状況や、避難の状況を確認できている人がいいかと思いました。

\*避難後の報告の際、一般参加者の数を間違えて報告してしまいました。…が、例えば、参観日や行事等で、外部からの訪問者が多い時に、事故(ミサイル、地震など)が起きると大変だろうな~と思いました。とりあえず、生徒の命ですが。本当の時は、普通、一般参加者の報告は、しないものではないでしょうか?

### 3 学期 H30. 1. 22(月) 東日本大震災の災害救護活動に参加して(保護者で益田赤十字病院看護師)

①僕は、東日本大震災があった時に、益田市から東北まで行き、ずっと救護をするというのは、とても大変で、素晴らしいと思いました。それほど患者のことを思って行動しているということが分かりました。患者の状態によって、優先順位を変えて効率よくしたり、DMAT で、災害などが起こり、すぐに医者を要請したりするシステムは、自分は全く知らず、すごいと思いました。新しい病院ができて、そこでは免震対策をしていたり、患者を緊急でドクターヘリで屋上から速く運んだり、災害があった時など、広い駐車場を使ったり、いろいろな工夫があり、感心しました。僕は、今日のお話を聞いて興味を持つことができたので、これからの選択肢の1つとして医療従事者のことを考えていこうと思います。

②震災の時、僕は小1だったので、あまり覚えていません。ですが、母が東北に行ったことは覚えていました。僕は、今日、母が東北で、何をしていたのかを初めて知ることができました。東北の被害は、すごいものと分かりました。さらに、1カ所だけではなく、3カ所を3日間の間、支援していたのですごいと思いました。石巻病院にも工夫があって、耐震用の病院だったので、病院は無傷だったので、すごいなと思いました。僕は、あのバネなどが、いろいろな建物に使われていることは知っていましたが、震災が起こる前に、免震バネをつけていたので、地震対策がすぐれているなと思いました。今回のお話で、東北で何があったか、どんな状況だったかが、知ることが出来ました。近年でも周辺で地震が起きているので、地震対策をしておきたいです。

③今日の話聞いて、災害が起こってもすぐに対応できる赤十字病院の人はすごいと思いました。災害がなくても、毎日忙しいのに、休みなく患者さんを思って働いていて、とても尊敬しました。他にも、現場の医師たちと協力して、知らない機器でも臨機応変に対応していて、僕は驚きました。僕だったら、焦って何もできないけど、すぐにできる人はすごい、僕もそうなりたと思いました。

④僕は、この授業で初めてDMATというのを知りました。DMATの人たちは、震災後すぐに現地に行くのは大変そうだと思います。また、益田と松江の人達で交代で行っていることや、免震対策などを行っていることも知りませんでした。災害というのは、どこで起こるかわからないので、防災対策をしっかりとっておきたいと思いました。

⑤私は、今日の災害時の医療講話を聞き、医師の方や看護師の方々の行動に驚きを感じました。3日間、ずっと動いて、疲れているはずなのに、患者さんのケアや、同じ医師の方のケアまでしていて、すごいなと思いました。ケガをしている人を一瞬で判断して動いていて、多くの体力を奪われるのではないのかと思います。もちろん、被災した方々の方が大変な思いをしているけれど、それを見たDMATの人とても辛かったと思います。私にとって、この話は、ためになる話だし、他人事で済まされることではないのだと実感しました。看護師という夢を叶えるためにも、多くのことを知っていきたいです。

### 3学期 大震災を忘れない防災学習&保護者引渡訓練&保存食試食

H30年1月30日(火)14:25~15:40(20人参加)

①僕は震災にあったことはないのですが、よくわかりませんが、いざとなると大丈夫だと思ってしまうのかなと考えました。1つの情報にとられるように、防災無線が鳴らないから大丈夫だと思ってしまうということが、自分にもよくわかります。なので、1つの情報だけで信じてはいけないということを頭に入れておきたいです。中学校の生徒会長の話で、僕は、どんなことに遭っても、この話を思い出し、運命をしっかりと受け止め生きていこうと思いました。災害は、いつ、どこで起こるのかわからない。もしかしたら、自分の思っていない所でもあるかもしれないことが、とても分かりました。僕は、家でどのような、災害の時のための物が、何があるかわかっていないので、しっかり把握しようと思います。

②7年前のことなので、どんな感じかは覚えていませんでした。今日久しぶりにニュースを見ました。津波が来ている時の状況を見て、恐ろしさを感じました。たくさんの人たちがいて、その中で今日、8人ぐらいの話を聞いて(映像を見て)、全員が、みんなと協力して支援したり、できることをしていたりして、僕には、まだ経験したことのないことだったけど、すごいなと思いました。ホテルの女将さんの話や矢部さんのような粹な行動は、たぶん自分には、できたり言えなかったと思うので、すごいです。まだ行方不明の人が2500人以上おられるし、まだ、元の風景に戻っていないので、早く戻ってほしいです。「人は一人では生きていけない」と、この前の感想で言っていたけど、今回の話や映像を見て、改めて、何かあった時には、人と人が協力するということが大切なんだと感じました。

③今日の授業を通して、人と人が助け合って命を守ることが大切だと思いました。3年前に無料で宿泊させてもらった恩を返さない後悔する、なんて、なかなか僕にはできないことだと思いました。階上中学校の答辞でも、本当に悔しいという思いが伝わってきて、それほど大変だったんだと改めて思い出しました。津波がすぐそこにある恐怖を僕は知らないし、知りたくもないけど、やはり、忘れてはならない出来事なので、伝えていく必要があると思います。

④当時、防災無線が聞こえない所もあったので、怖いなと思いました。また、ここは大丈夫だと思っても、実際は、津波が来ていたりするので、災害時は、とりあえず避難したいと思いました。避難の時、多くの人が、人の呼びかけで避難した人が多かったので、自分も呼びかけができる人になりたいと思いました。

\*真砂に津波は来ない、自主防災の考えは違っていた。津波も土砂災害も、やる事、考える事、考えなくてはならない事は一緒だと、改めて感じた。真砂地区自主防災団体の運営をしていく上で活かしていきたい。大変参考になりました。避難場所の複数化も大いに役立った。真砂の子ども達にどれだけ伝わったか。ただ、涙を流すだけでは何も始まらない。自分に何ができるのかを考えて学校生活を送ってほしい。

\*私も良い勉強になりました。学習した子供達も声を出して人に伝えて欲しいと願っています。子供達にできる応援のビデオはとても良かったです。こう言う声援の方法があるのだと分かったと思います。大人の私も感動しました。

\*大震災を乗り越えて、人の為に何かをしようと頑張っている子供達の姿に感動しました。真砂の子供達も人の為に行動できる人になってほしいなと思いました。保存食や非常用品を少しはしていますが、家族全員分くらいは備えておかないといけないなと思いました。保護者引渡のやり方も、このように決めておくと安心だなと思いました。

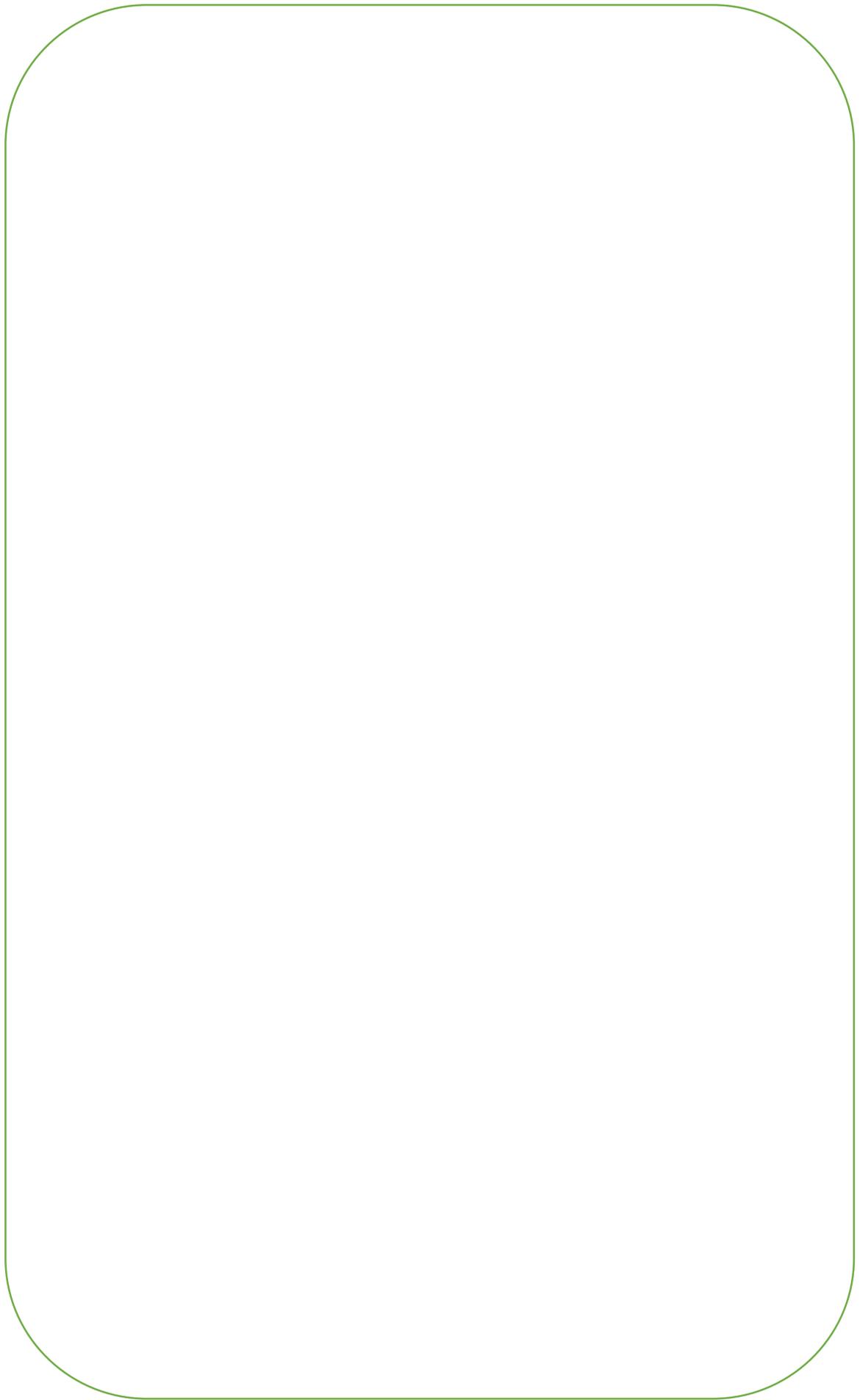
# 二つ二つ訪問 記録

◇生徒氏名 \_\_\_\_\_ 年 Name \_\_\_\_\_

◇訪問者名 \_\_\_\_\_

訪問先 (No. _____ )		_____ さん宅		
訪問日	H . _____ / ( _____ )	訪問時時間	: _____ ~ _____	:
住 所	益田市 _____ 町			
生年月日	T・S _____ 年 _____ 月 _____ 日	年齢	_____ 歳	
TEL			避難場所	
趣 味 (生活の中で楽しみなこと)				
困っていること				
その他 (会話したことなど)				
感 想				

裏面に写真添付



## 「ニコニコ訪問 記録」の感想欄より

### ①2年男子&母または祖母が訪問

- ・訪問すると喜んでくださり、昔の話をしてくださった。35年間一人暮らしで家のことを全部一人でやっていることがわかり、とても大変なんだと思いました。手伝えることがあればやっていきたいと思いました。(85歳女性を訪問)
- ・訪問をした時に、「待ってたよ」と言ってくださって、とても歓迎してくださり嬉しかったです。そして、2時間も話を聞いたけれど、あっという間に過ぎた。訪問することを近所の方に話したら一緒に行ってくれてくださり、とても会話がはずみ楽しかったです。声かけをすると喜んでくださるとわかりました。(83歳女性を訪問)
- ・自分が訪問をすると、「見かけた時にあいさつをしてくれるから、とても元気になる」とおっしゃってくださったので、うれしかったです。(82歳と79歳のご夫妻を訪問)

### ②2年男子&父が訪問

- ・あまり会っていない人だったので、行って良かったです。本人も避難場所がわかっていなかったのも、やって良かったなと思いました。困っていることが真砂ならではだったので、理解できました。(89歳女性を訪問)
- ・まず、困っていることがないので安心しました。一人目の方と同じで、避難所がわかっていなかったのも、聞いてよかったです。よく家に来られるので話しやすかったです。(88歳男性を訪問)
- ・とても元気なおじいさんでした。しかも、困っていることが無いと言ってもらえて良かったです。しかし、避難場所がわかっていても、行きづらいとおっしゃっていたので、そこが問題点です。(87歳男性を訪問)

### ③2年男子&母・祖母が訪問

- ・独居老人の方の悩みが意外と難しかった。寂しいとかなら、訪問などで喜んでもらえるけど、「車がないので買い物が不便」などは、僕ではどうもできなかった。(76歳女性を訪問)
- ・とても明るい人で話しやすかった。川柳などを新聞に自分から出して、すごいと思った。膝の調子が悪くて病院に通っているらしく、大変な中でも、自分の楽しみを見つけていて、そこもすごい人だなと思った。(75歳男性を訪問)

### ④3年男子&母が訪問

- ・ほとんど親がやってしまったので、自分で言わないとなと思った。(93歳男性を訪問)
- ・今度は、最初から最後まで自分でできたのでよかった。(88歳男性を訪問)
- ・前より話のできたので良かった。(93歳男性を再訪)

### ⑤3年女子&母が訪問

- ・訪問に行ってみて、楽しくお話することもでき、困っていることも聞くことができました。お年寄りとの交流は、とても大事なのだと感じました。(90歳女性を訪問)
- ・知っている方だったけど、緊張して話しづらかった。もっと話せるようになりたい。(86歳女性を訪問)

# ニコニコ訪問

真砂まるごとフェスタ

## 高齢者との夏休み親子訪問交流活動について（お礼）

向寒の候、地域の皆様にはますますご健勝のことと存じます。平素より、本校教育活動につきまして格別のご理解ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

今年度より、新たな親子PTA活動として、長期休業期間中に、生徒が保護者とともに、自宅周辺の高齢者のお宅を訪問して、お互いの顔と名前がわかる関係づくりを構築していきたいと考え、通称「ニコニコ訪問」を開始しました。

早速、夏休みには、快くご協力いただき、ありがとうございました。

今後も、冬休みや春休みにはお一人ずつ、夏休みにはお二人と、少しずつではありますが、交流を深めさせていただきたいと思っております。ご多用の折とは存じますが、ご協力の程よろしくお願いいたします。

- 1 ねらい
  - ・生徒が保護者とともに、自宅周辺の（独居）高齢者宅を訪問して、お互いに顔と名前がわかる関係づくりを構築する。
  - ・「ときめきの里 真砂」の「真砂地区自主防災団体」設立に合わせて、災害に備え、日頃から地域の実情を把握し、お互いに声かけを行う。
  - ・生徒が地域の高齢者と接する機会を設けることにより、微力ながらも地域への貢献を図る。
  - ・真砂地域に暮らす一人としての自覚を深め、真砂を愛する気持ちを育むとともに、より良い生き方を考える機会とする。
- 2 活動内容
  - ・夏休み中に親子で、自宅周辺の高齢者宅を**2軒以上**訪問し、別紙記録シートに記入し提出する（できるだけ生徒と高齢者の方との写真を添付する）。
  - ・訪問する前に、**事前に**、電話等で訪問の目的を伝え、お話をしに訪問してよいか**許可を取る**際に、保護者も一緒に電話をかける又はそばにいて助言する。
- 3 第1回活動期間 平成29年7月21日（金）～8月27日（日）
- 4 第1回提出期日 平成29年8月28日（月）
- 5 第2回活動期間 平成29年12月23日（金）～平成30年1月8日（月）
- 6 第3回活動期間 平成30年3月24日（土）～平成30年4月8日（日）（2年生のみ）

**\* 今後もご協力のほど、よろしくお願いいたします。**

1学期 地震防災学習&避難訓練 平成29年6月26日(月) 13:25~14:15 (参加者19人)



2学期 Jアラート避難訓練 平成29年9月7日(木) 15:40~15:50 (各学級にて担任&生徒)



3学期 H30.1.22(月)  
東日本大震災の  
災害救護活動に参加して  
(益田赤十字病院看護師)



2学期 緊急地震速報伝達訓練(全国規模で実施) H29.11.1(水)10:00頃 (授業中に実施)



2学期 火災避難訓練&防災学習 平成29年11月24日(金) 14:25~15:30 (参加者22人)



**呼吸が異常な場合は、AEDの活用を**

- ・「もし心停止でなかったら、AEDを使って大丈夫なの?」と心配する必要はありません。
- ・AEDのパッドを貼って電源を入れれば、自動診断が始まり、「心停止」であるとAEDが診断し、必要であれば電気ショックの音声指示が流れます。電気ショック後も、電気ショック不要の場合も胸骨圧迫は続けます。
- ・呼吸が止まってしまった場合は「心停止の状態」と判断し、ただちに胸骨圧迫を開始し、AEDによる処置を行いましょう。
- ・倒れた人に遭遇した時は、「呼吸の異常=死威嚇呼吸かもしれない」という意識を持って処置にあたること、大切な命を救うために必要なのです。呼吸も心停止のサインです! AEDはミーDr! 使ってください!



3学期 大震災を忘れない防災学習&保護者引渡訓練&保存食試食 H30年1月30日(火)14:25~15:40(20人参加)



**防災とは 命を守れば100点満点**

- ・地震の時は **生き残れば〇**です
- ・一人一人違う方法ができません。生き残れそうな方法を選んでください。正解はいつでもあります。
- ・日頃から常に自分で、どの時点でいいのかなどと考えられるような力を養って、冷静な判断力を養っておくこと。
- ・その場で人同士が助け合えることが大事! 最後は人を助かす。生きてくのもうけ